

群馬のスポーツ ⑮ 鉄人ボウラー

昭和22年(1947)～



まつ ばら み 松原美 智 雄

昭和二十二年(一九四七年)松原美智雄は藤岡市藤岡で生まれたよ。藤岡小、藤原中学校を卒業しました。卒業しました家業の松原運送を手伝いながらボウリングをたのしんだよ。

松原さんはボウリングがうまいな。中学のとき体操にしたり、俊敏さや集中力がみについたのかもよ。

昭和四十八年ボウリング熱のたかまりとともに松原の実力はあがっていった。そして、四十八年全日本ボウリング選手権の県代表チームの一員に選ばれた。

昭和五十年第一回全日本選抜ボウリング選手権で優勝。その名を全国に知られるように。なつたんだ。

実力と修練のうらうちがなければ上位にくいこめない国体でついに松原は上位。平成五年度の東四国国体では念願の個人団体の優勝の快挙。

さらに四十四回国体から連続出場と団体での連覇をめざしての挑戦はつづく。

手権3回、国体1回の優勝、さらに世界選手権での銅メダリストに。
30代半ば、左足の故障で3年間レーンから遠のいたが、「国体の正式種目となったのを機に自分が1ポイントでも貢献できれば」と復活宣言。実力と修練の裏打ちがなければ上位にも食い込めない国体で常に上位、平成5年度の東四国国体では念願の個人・団体の優勝の快挙。さらに44回国体からの連続出場と国体での連覇を目指しての挑戦が続く。

敵はまわりの選手ではない。二十メートル先のピンだ。

松原さんはパーフェクト(二〇〇点満点)を四回体験したそうだよ。

昭和22(1947)年2月19日、藤岡市藤岡の運送業、松原政五郎・みや夫妻の2男に生まれ、地元の小中学校を出て家業を手伝いながらボウラー一筋に30年。中学で体操に親しみ、小柄な体をより俊敏に集中力のあるスポーツマンに変えていったのは間違いない。ボウリング熱の高まりとともに一気に全国に名をかせ、「名に恥じない結果を」と練習に汗。ビッグ大会ごとにマツバラの名を高め、ボウリング界の3大タイトルの全日本選手権1回、全日本選抜選

ボウリングのすべてを愛するといふことは、どんな残りピンでもくさらず、精いっぱい投げる、を信条に精進した。

ボウリングが国体の正式種目になったぞ。カムバックしてほしいよし！ほくがーポイントでも貢献できれば。

二年間無念のリタイアで大会出場はありませんでした。ちくしょうボウリングをやりたいなあ。

ところが三十代半ば(昭和五十六年ごろ)左足を故障したよ。うっ！ひざが痛む。

ビッグ大会ごとに松原の名を高めたボウリング界の三大タイトルの全日本選手権二回の優勝、さらに世界選手権で銅メダリストになつたんだよ。